

事例 01

高村優子
有限会社ファーマティカ
たけの薬局下妻店
(茨城県下妻市)



たけの薬局下妻店

理解度テストで不明点を掘り起こし ピンポイント指導で効果を上げる

特定薬剤管理指導加算の新設を きっかけに対応を見直す

有限会社ファーマティカ（竹野信吾代表取締役社長）は東京・茨城で6店舗を展開する。そのうち、茨城県下妻市にある「たけの薬局下妻店」では、ハイリスク薬にあたる糖尿病治療薬を服用する患者に対して患者指導箋を作成。これを用いて指導することによって患者のアドヒアランスが高まり、より有効で安全な薬剤の使用につながっている。

この取り組みを始めたのは、2010年度の調剤報酬改定において「特定薬剤管理指導加算」（4点）が新設されたことがきっかけだった。同薬局の高村優子さんによると、この点数に対する仲間の薬剤師の反応は様々で、「これまでもハイリスク薬については情報提供や服薬指導を行ってきたのだから、加算してもらうのは当然」といった意見も多かった。

しかし、高村さんは4点を加算された重みを感じ「普段やっていることだが、患者さんに十分に情報が伝わり、安全を守ることに役立っているかどうか、あらためて意識してみたい」と考えたそう。そこで、ハイリスク薬を服用している患者への対応を見直すことにした。今回は、同薬局が受け付けるハイリスク薬の中でも比較的処方数が多く、増加傾向にある糖尿病治療薬にターゲットを絞った。

まず、高村さんらは、これまでに薬剤師が提供してきた情報が患者や家族に正しく伝わり、それが安全管理に活かしているかどうかを検証するために、糖尿病治療薬を服用する患者や家族を対象とする理解度テスト（図1）を実施した。理解度テストの項目は「薬局におけるハイリスク薬の薬学的管理指導に関する業務ガイドライン」をもとに作成。患者や家族の中にはテストといわれると、抵抗を感じる人もいたので「糖尿病について確認させていただいてもよろしいでしょうか」と切り出した。また、理解度テストは店頭で聞き取る形で行ったので、ばらつきが出ないよう同一の薬剤師が担当した。

処方医とも事前に協議して 指導内容の統一化を図る

理解度テストの結果をまとめてみると、高村さんたちが予想していなかった患者や家族の状況が明らかになってきた。まず、低血糖という言葉を知っていても、実際に低血糖症状を経験した患者が少なく、具体的な症状を理解していない人が多かった。「患者さんご家族に確認すると、めまいやふらつきといった症状以外は知られていませんでした」（高村さん）。

また、低血糖が起こりやすい状況や対処法についても理解している人が少なかった。さらに、シックデイについては言葉そのものを知らない患者や家族がほとんどだった。

高村さんたちは、これらの検証をもとに低血糖とシックデイの患者指導箋（図2・3）を新たに作成し、服薬指導の際に活用することにした。患者指導箋の作成にあたっては、事前に糖尿病治療薬を処方する医師にも相談し、患者や家族が混乱を来さないよう、医師と薬剤師の指導内容に差異がないことに気をつけた。

同薬局は約10年前に地域のかかりつけ医機能を担う内科医院の門前薬局として開局。そのため、隣接する内科医院とは開局当初から月1回、定期的に合同症例検討会を開催して医師の処方意図を確認するなど、良好な関係が出来上がっていた。このようなベースがあったので、今回の取り組みに対しても、医師の理解を得られやすかったという。

「医師には、低血糖やシックデイを強調しすぎると、患者は怖いから薬を飲まないという状況になりかねないので、十分に注意してほしいといわれました。このような医師の要望を踏まえ、指導内容について話し合ったことで、治療目標の共有化も図れたと思います」と、高村さんは振り返り、ハイリスク薬の管理には医師との協働も欠かせないと指摘する。

「処方する医師と話し合うのが難しいとしても、低血糖やシックデイに対する指

導内容については必ず確認しておく必要があります。医師と薬剤師の指導内容が統一されることによってアドヒアランスが高まるだけでなく、患者さんやご家族にはチームで見守ってもらえているという安心感も生まれるようです」と、高村さんは協働がもたらす利点について話す。

こうして、高村さんたちは新たに作成した患者指導箋を用いて2カ月間に2回、対象となる患者や家族に糖尿病治療薬の服薬指導を行った。そして、患者や家族の理解度やアドヒアランスがどのくらい高まったのかを確認するために再度、理解度テストを実施した。

その結果、低血糖の具体的な症状についての理解度は増したが、低血糖が起こりやすい状況の理解度はあまり変化がなく、対処法についても服用する薬剤により理解度に差があることがわかった。

「初回時と比べると、患者さんやご家族の理解度は高まりましたが、さらに力を入れなければならない部分もわかりました。理解度テストで確認することによって患者さんやご家族がどの部分をわかっていないのかを掘り起こすことができるので、よりの確な服薬指導につながっています」と、高村さんは評価する。

服薬指導や服薬支援の質向上に 確実につながる

また、理解度テストの聞き取りは、日常生活における患者や家族の行動や対応を把握することにも役立ち、生活環境や療養状況に応じた適切な服薬管理や服薬支援が可能になったという。

「高齢者のご家族の中には、薬のことは本人にまかせているので、低血糖やシックデイへの対処法を知らないという人も少なくありませんでした。こうした事実が判明したことから、家族への指導も必要であると感じています」（高村さん）。この点については処方医とも指導方法を協議し、対応していきたいと考えている。

さらに、薬剤師はきちんと説明しているつもりでも内容が難しく、患者や家族



「患者さんがきちんと理解し、安全管理に生かしてもらってこそ、4点の加算価値がある」と高村優子さんは話す

糖尿病について確認してみましょう

★ 低血糖では、こんな症状があらわれます
低血糖の前兆や初期の兆候は、空腹時の血糖値が低い状態から始まり、次第に悪化して意識障害や昏倒を引き起こすことがあります。お薬を服用する際は、必ず医師や薬剤師の指示に従ってください。

図2 患者指導箋／低血糖の症状

★ シックデイとは・・・
糖尿病の合併症の一つで、血糖値が急激に低下し、意識障害や昏倒を引き起こすことがあります。お薬を服用する際は、必ず医師や薬剤師の指示に従ってください。

★ シックデイ・ルール
① 早めに気づいて、適切な処置をしましょう。
② 体を温かくして、安静にしましょう。
③ 水分を十分に補給しましょう。
④ 原因が食後血糖値の上昇による場合は、食後血糖値を測定し、適切な処置をしましょう。
⑤ 自己チェック（血糖、尿糖、尿糖値など）は頻りに行いましょう。

図3 患者指導箋／シックデイとは

※図2、3は「2型糖尿病の治療」（大日本製薬〈現大日本住友製薬〉）、「糖尿病快速ガイド」（バイエル薬品）より一部改変

に十分に伝わっていないことも明らかになったので、できるだけわかりやすい言葉を使うことを心がけるようになった。特に「シックデイ」という言葉は、新しい患者指導箋を活用しても高齢患者には受け入れられなかったもので、表現にもう一工夫が必要だと痛感しているようだ。

「高齢患者さんの場合、毎日手に取る薬袋に記載されていることを、いちばん理解されていました。これからは情報提供のツールとして、薬袋の活用も検討していきたい」と、高村さんは意欲的だ。

今回の取り組みを通して、患者が医者まかせの治療態度になっていることも浮

糖尿病について確認してみましょう

① (1) 糖尿病治療では低血糖が起こることがあります。低血糖という言葉を知っていますか？
(2) 低血糖の症状にはどんな症状がありますか？
(3) 低血糖はどんな時に起こりやすいと思いますか？
(4) 低血糖が起こった時にはどうしますか？

② (1) あなたが現在服用している糖尿病のお薬はどれですか？
(2) そのお薬はいつ服用していますか？（それぞれの薬について）
(3) お薬を服用し忘れてしまった時は？（それぞれの薬について）

③ (1) シックデイという言葉を知っていますか？
(2) では、シックデイの時、どうしたら良いでしょう？

図1 理解度テスト

内服薬 2011年02月10日

ですと1様

1日3回 毎食直前服用 14日分

日	朝	昼	夜	単位
1	1	1	1	錠

薬名 薬品名 錠 25mg

用法 1日3回、毎食直前服用。空腹時の血糖値が低い場合は、医師の指示に従って服用してください。

★ **飲み忘れ防止**
食事中に薬を飲むときは、必ずお薬を飲んでください。

★ **低血糖症状**
ブドウ糖を服用してください。

たけの薬局 下妻店
〒305-0837 下妻市取手8-37
Tel. 0296-33-5500

○お薬の取扱いには、上記までご連絡下さい。
○自己投与の薬品等は、転送できません。

図4 高齢者が一目でわかるように薬袋の記載にも配慮している

き彫りになったことから、今後は血糖値の測定結果や治療経過についても医師や患者と情報を共有し、患者や家族が積極的に治療に参加できるように支援していきたいとも考えている。

最後に高村さんは、「他のハイリスク薬に対しても今回の手法が応用できるので、次はジギタリス製剤について取り組みたいと、医師とも相談しているところだ。ハイリスク薬への対応を見直すことによって服薬指導や服薬支援の質向上にも確実につながったので、4点の加算の重みにこだわってよかったと実感しています」と締め括った。